

原子力学会における人材育成について

1. 原子力学会 2025 秋の大会 理事会セッション（令和 7 年 9 月 10 日）

「原子力人材育成における学会の果たすべき役割」と題して、文部科学省、経済産業省、原子力規制庁より、人材育成に関する取組について説明。

【概要】

- ・ 大学における「原子力」という看板は平成初期に激減して以降、学生数が減少、さらに現在の原子力関連の若手教員数が激減
- ・ 大型実験施設や原子力施設の減少し、今後の人材育成が課題
- ・ 産業界に向けて、総合工学としての原子力の魅力と可能性を発信、人材の裾野拡大
- ・ 既設炉の最大限活用と次世代革新炉の開発設置に向けたサプライチェーン支援
- ・ 原子力プラントの建設（ものづくり）分野における人材育成・確保は喫緊の課題
- ・ 原子力分野への進学を希望する学生の減少や原子力専門科目の減少により、原子力業界への就職希望学生が減少
- ・ 実践的な人材育成に資する取り組み
- ・ 他省庁との人材育成事業と連携強化

原子力人材の育成については、様々なプレイヤーがそれぞれ取組を行っているが、取組の整理や追加的拡大・重点化の横断的検討は行われていない。産学官が一体となり、年代、階層、対象レベル、分野ごとに全体観のある効果的なアプローチに向けて、原子力人材育成の司令塔機能を創出し、関係者間の役割分担・連携方法の具体化、リソース配分を統合的に検討することが必要。

2. 原子力学会ダイバーシティ推進委員会

(1) 女子中高生夏の学校

毎年「女子中高生夏の学校」に参画し、ミニ実験（空気 GM 管の製作と放射線計測実験）やポスター展示（身近な放射線について）、キャリア相談を実施している。

【参加者の感想の一部】

- ・ 簡単なキットで放射線を測定できるのを初めて知り、すごいなと思いました。
- ・ 放射線の説明がわかりやすく、とても面白かったので放射線についてもっと知りたい。
- ・ 今まで進路として考えたことのなかった物理系に興味を持てた。放射線は有害なイメージしかなかったが、身近な物質からも出ていて全てに害があるわけではないことを学べた。
- ・ 放射線は怖いだけでなく面白いと感ずることができた。
- ・ 今まで放射線は遠い存在に感じていてよく分かっていなかったが、少し身近なものに感じられ理解を深めることができた。

(2) 原子力学会における企画セッション

年会・大会でポスターセッションを開催し、「私の働き方」などをテーマに、電力やメーカの方々を中心に発表いただいている。ポスターセッション終了後には、参加者との意見交換会を行い、「働き方」「子育て」「キャリアパス」について議論している。

(3) 人材育成ネットワークと共催で座談会を開催

- ・ 女子学生や女性技術者を対象「どうして原子力を勉強したいと思ったの？」
- ・ 男子学生を対象「原子力のジェンダーバランスについてどう思ってる？」

【女子学生／女子技術者の意見の一部】

<動機>

- ・ 原子力という分野をカッコいいと思った。
- ・ テイラー・ウイルソン氏の「太陽を創った少年」を読んで憧れた。
- ・ 高温ガス炉の研究が止まっていることを知り、引き継いで第一人者になりたいと思った。
- ・ 福島第一原子力発電所の事故後、原子力について調べて、関わりたいと思った。

<原子力分野に進んで良かったこと、残念だったこと>

- ・ 総合工学であるため、いろいろな分野の学問を学ぶ機会がある。
- ・ 子供から仕事内容を聞かれて伝えても「カッコいい」とか「すごい」と言ってもらえない。

<原子力を人気ある分野にするには>

- ・ 職業として原子力産業界をもっと外に発信して伝えるべき。
- ・ 子供達に原子力に関わる仕事を知ってもらい、見てもらう努力が必要。

【男子学生の意見の一部】

- ・ 社会学や原子力安全に関しては女性の考え方を取り入れる必要がある。
- ・ 女性研究者が少ないことは問題だと思う。
- ・ 入口となる中高生に対する進路選択時のアプローチも重要だが、出口となる企業における女性の働きやすさを示すなど、入口と出口の双方向に関して働きかけることが重要。
- ・ 「核」について議論することがタブーとされている風潮がある。
- ・ 安全確保や廃炉産業にやりがいや興味を持ってもらえるかどうかがかギとなる。
- ・ 技術の進歩が女性でも働きやすい環境を後押しする。
- ・ 女性は就職先が都市から離れることが難点ということを知る。
- ・ ロールモデルは重要。
- ・ 自分たちは福島第一原子力発電所事故を知っている世代なので、原子力を考えるときに安全に関して取り組みたいと考えるが、自分たちより下の世代は新しい技術開発に興味を持つのではないか。